

受け入れネットのファーム・シェア事業

1.目的

1.1 つなぐ

- ・避難者と被災地（家族、友人）をつなぐ → 安心安全な野菜を被災地に送る
野菜と一緒に元気でいることを伝える
- ・被災者と被災者をつなぐ → 畑や田舎で出会う
- ・避難者と（北海道の）田舎をつなぐ → 田舎との縁（コネクション）ができる

1.2 田舎に行く

- ・自分自身のため → 都会や避難していることやストレスからの開放
大地と格闘する。自然を感じる。仕事が出来る。
- ・子ども達のため → 自然環境、思いっきり体を動かせる、昔の生活

1.3 食べられる

- ・目に見える安心・安全を食べられる。
↳ 脱放射能、無農薬、低農薬
- ・手作りのもの、昔ながらの知恵が食べられる（自分たちの野菜以外の地域の食べ物）

1.4 学ぶ

- ・農業を学ぶことができる。
- ・就農のきっかけづくりができる。

2.対象

2.1 会員

- ①都市部に避難している人
- ②趣旨に賛同する北海道の人
- ③短期保養者

2.2 スタッフ

- ①事業の管理・運営スタッフ（事務）
- ②畠の管理スタッフ
- ③アドバイザースタッフ（農作業全般のアドバイス）
- ④田舎インタープリター（現地のガイド、田舎の生活のサポート）

2.4 サポーター

- ・労働、資金、物資、購買、その他
- ・無償または、宿泊・食事、野菜など賃金以外の対価

3. プログラム（具体的な事業内容）

3.1 育てる（野菜を作る）

- ・契約した田舎の農場に来て、大人、子どものそれぞれに応じた畠仕事を行う。
- ・会員たちが来られない期間は、アドバイザースタッフおよび畠の管理スタッフが管理する。

3.2 食べる

- ・田舎で食べる（通常の食事のほか、現地で食べるイベント）
- ・持ち帰る
- ・送ってもらう（収穫に来られない人）

3.3 遊ぶ

- ・サポーターやスタッフ、地域の方たちと一緒に食事する。
- ・畠仕事の前後に地域に宿泊し地域住民と交流したり、地域イベント参加したりする。

3.4 届ける

- ・収穫した野菜を被災地の家族や友人に送る。
- ・自分自身で収穫、梱包、発送ができない場合はスタッフが対応（代行発送）する。

3.5 学ぶ

- ・アドバイザースタッフから農作業全般および就農について学ぶ。
- ・地域住民から伝統的生活文化について学ぶ。

4. 課題

4.1 人

- ・会員、サポーターをどのようにして集めるか。またその管理をどうするか。
- ・アドバイザー、田舎インタープリターをどのようにして集めるか、育てるか。

4.2 ルールと経費と収益

- ・収穫された作物の配分ルールをどうするか。
- ・経費負担のルール、労働を経費負担に換算するか。
- ・販売を行うか
- ・会費の額と徴収方法をどうするか。

4.3 施設

- ・畠
- ・宿泊施設